

1 平成26年度 西暦2014年度 当初予算編成

第1 予算編成の基本的な考え方

平成26年度当初予算は、引き続き「市民が主役の市民のためのまちづくり」の理念のもと、「株式会社宮崎市役所づくり」「きずな社会づくり」「元気な宮崎づくり」の3つの都市経営の基本方針にもとづき、行財政基盤の強化を図りつつ、「第四次宮崎市総合計画後期基本計画」に掲げる3つの戦略プロジェクトを着実に実施するための予算としました。

また、予算編成にあたっては、限られた資源を有効に活用する観点から、市民目線で思い切った事業の見直しを行うなど、行財政改革を強力に推進することにより、総合計画における将来の都市像である「活力と緑あふれる太陽都市…みやざき…」の実現と新宮崎市の一体的な発展に引き続き取り組むとともに、効率的で信頼される「健全財政都市」づくりを進めるため、

(1) 『第四次宮崎市総合計画後期基本計画の積極的な推進』

「株式会社宮崎市役所づくり」「きずな社会づくり」「元気な宮崎づくり」の3つの都市経営の基本方針のもと、「市民が主役の市民のためのまちづくり」を推進する。

また、「選択と集中」の観点から、限られた経営資源の重点的投資、地域資源の有効活用により、地域の活力を引き出す施策を展開し、「次世代につなぐまちづくり」を推進する。

特に、「第四次宮崎市総合計画後期基本計画」に掲げる「将来を担う“ひと”づくり」「地域の“きずな”づくり」「“げんき”なまちづくり」の3つの戦略プロジェクトを効果的に展開するために、「健康力」「人財力」「地域力」「防災力」「環境力」「ブランド力」「滞在力」「経済力」の8つの重点テーマに市民総力戦で取り組む。

(2) 『新市建設計画、新市基本計画の着実な推進』

均衡ある市域の発展を図るため、「新市建設計画」及び「新市基本計画」に基づく各種事業を着実に実施する。

(3) 『徹底した行財政改革の取り組みと健全財政の確立』

「第四次宮崎市総合計画」に掲げる目標の一つである「効率的で信頼される行財政運営」の確立に向け、「第7次宮崎市行財政改革大綱」を見据え、危機意識と改革意欲を持って、定員管理の適正化や民間事業者の活用等による市民ニーズへの対応など、行財政改革に徹底的に取り組む。

また、「宮崎市中期財政計画（H22～H26）」における目標を達成するため、歳出全般を見直すとともに、全ての会計において元金ベースのプライマリーバランスの黒字化に取り組み、市債残高の圧縮につなげ、財政5基金についても取り崩し額を抑制し、本来の目的である不測の事態への備えとして、一定額を確保する。

併せて、歳入の根幹である市税等の自主財源の収納率向上に格段の努力を払い、歳入確保対策に取り組むなど、全庁一丸となって財政健全化に取り組む。

これら3つの基本方針のもとに、事業評価結果を適切に反映し、より効果的かつ効率的な事業となるよう、評価対象事業に留まらず全ての事業について見直しを行いつつ、産業の早期復興や地域経済の活性化を図るための景気対策・雇用創出などの市民の活力につながる事業及び地震・津波等に対する総合防災対策や感染症の予防対策など市民の命を守る事業の充実・強化に配慮することとしました。

また、平成26年度は市制施行90周年を迎えることから、未来につながる記念事業を効果的かつ着実に実施するとともに、新市建設計画についても、平成26年度が最終年度であることに留意し、引き続き着実に実施することとしました。

なお、事業評価結果に応じた予算要求基準を設けるとともに、平成25年度当初予算額の一般財源に市債を加えた額（以下、「一般財源ベース」という。）から13%減じた額を「各部局の予算達成目標」（義務的経費、普通建設事業費及び繰出金を除く。）として設定する一方で、普通建設事業費の一般財源ベースの予算達成目標については、国の概算要求組換え基準を踏まえ10%を減じた額に設定するなど、メリハリの効いた予算編成に取り組みました。

第2 予算規模と特徴

市制90周年から100周年に向けて

8つの力で着実に発展する「未来発展型予算」

平成26年度当初予算は、市税の伸びが予想されるものの、地方交付税等の動向について不透明な点が多く、安定的な財源の確保が期待できない状況にあります。加えて、少子高齢化等に伴う社会保障費の増加が見込まれるなど、財政運営は依然として厳しい状況にあります。

そのような中で、真に必要な市民サービスの水準を確保しつつ、喫緊の課題である地域経済の復興・活性化及び総合的な防災対策、感染症の予防対策など市民の命を守る事業に最優先に取り組むことにより、市制90周年から100周年に向けて、8つの力で着実に発展する「未来発展型」の予算としました。

また、「宮崎市中期財政計画」を踏まえ、行政経費の節減・合理化を図るとともに、緊急性や有効性を勘案し、不要不急の事業を見直すことにより、元金ベースでのプライマリーバランス(基礎的財政収支)の黒字化を堅持したところ です。

これにより、平成26年度の一般会計の予算規模は、1,523億8,000万円、対前年度比1.2%の増、全会計の予算総額では、2,992億6,100万円、対前年度比1.4%の増となったところです。

【宮崎市の予算規模】

会計区分	平成26年度	平成25年度	伸率
一般会計	1,523億8,000万円	1,505億5,000万円	1.2%
特別会計	1,094億6,700万円	1,079億4,400万円	1.4%
企業会計	374億1,400万円	365億9,500万円	2.2%
合計	2,992億6,100万円	2,950億8,900万円	1.4%

【宮崎市の一般会計予算】

区分		平成26年度	平成25年度	伸率
歳入のうち	市 税	505億2,700万円	497億4,800万円	1.6%
	地方交付税	294億8,700万円	304億8,200万円	3.3%
	地方債	161億4,800万円	165億3,100万円	2.3%
歳出のうち	人件費	204億1,200万円	207億5,300万円	1.6%
	扶助費	458億2,200万円	445億500万円	3.0%
	公債費	218億8,800万円	216億5,100万円	1.1%
	投資的経費	143億600万円	154億3,600万円	7.3%

参 考

【国の一般会計予算フレーム】

区 分		平成26年度	平成25年度	伸率
一般会計予算		95兆8,823億円	92兆6,115億円	3.5%
歳入のうち	税 収	50兆 10億円	43兆 960億円	16.0%
	公 債 金	41兆2,500億円	42兆8,510億円	△3.7%
歳出のうち	基礎的財政収支対象経費	72兆6,121億円	70兆3,700億円	3.2%
	国 債 費	23兆2,702億円	22兆2,415億円	4.6%

【地方財政計画フレーム】

区 分		平成26年度	平成25年度	伸率
地方財政計画の規模		83兆3,607億円	81兆9,154億円	1.8%
歳入のうち	地 方 税	35兆 127億円	34兆 175億円	2.9%
	地 方 交 付 税	16兆8,855億円	17兆 624億円	△1.0%
	地 方 債	10兆5,570億円	11兆1,517億円	△5.3%
歳出のうち	給 与 関 係 経 費	20兆3,414億円	19兆7,479億円	3.0%
	公 債 費	13兆 745億円	13兆1,078億円	△0.3%
	投資的経費（単独分）	5兆2,279億円	5兆 30億円	4.5%

【主要財政指標】

区 分	宮崎市	地方財政計画
一般会計予算規模の伸び率	㉔ 1.0% → ㉕ 1.2%	㉔ △0.1% → ㉕ 1.8% (地方一般歳出ベース)
地方債の伸び率	㉔ 2.1% → ㉕ △2.3%	㉔ △0.1% → ㉕ △5.3%
一般財源比率	㉔ 64.1% → ㉕ 63.2% (臨時財政対策債を含む。)	㉔ 65.4% → ㉕ 65.7%
地方債依存度	㉔ 11.0% → ㉕ 10.6%	㉔ 13.6% → ㉕ 12.7%